

## 第51回教誨師中央研修会評価委員会議事録

1 日 時 平成28年9月2日（金）午後3時から午後5時まで

2 場 所 法務省1階控室

3 出席者

全国教誨師連盟

舎奈田経夫副理事長、中川文隆副理事長

事務局

龍田恒夫事務長、佐藤 均主事

関係者

法務省矯正局成人矯正課 滝山直樹事務官

4 研修目的

第51回教誨師中央研修会の評価について、研修に参加した教誨師64名に対しアンケート用紙を配布して実施して、その回答を評価の参考とした。

研修会の目的及び対象者は、刑事施設に所属している教誨師を対象に、矯正行政の施策や方向性並びに矯正施設の収容動向等を理解し、また、教誨の在り方等について研究討議を行い、持って教誨実施に必要な広い知識や技能の習得を図り、教誨活動の向上に資することを目的として実施した。

5 議事内容

(1) 事前準備

- ・ 研修会を実施するにあたり、企画委員会及び企画実行委員会を開催して研修目的や研修テーマ等について十分な検討が行われるとともに、準備が行われた。
- ・ 講師の選定や、分科会（班別討議）について、研修参加者にとって有益なものになるようにした。
- ・ 従来実施していた2泊3日の研修日程を見直し、1泊2日の研修日程とし内容も充分検討して実施した。

(2) 大会当日

- ・ 薬物をテーマとした研修については、研修参加者から好評であったとの評価を受けた。
- ・ 分科会（班別討議）の反応は良好であり、研修参加者が意見や質問を積極的に行うことができた。

- ・ 1泊2日の日程により研修を初めて実施したが、初日の日程がやや煩瑣であったので、今後検討工夫を行うことが必要である。
- ・ 施設職員による処遇の現状等についての講演は、多くの研修参加者が興味を示し、所属する施設との比較ができたとの反応が多くあり、好評であった。

### (3) 研修会の感想

- ・ 薬物に関する講演では、医師や実際に薬物依存者等を講演者として貰いたかったとの反応があった。この点については、今後継続して検討を行う必要がある。
- ・ 施設職員による処遇状況の講演について、現在、施設で行われている処遇の実態を理解することができたほか、自己の所属している施設との比較を行うことができ大変参考となったとする反応が多く、今後も継続して実施して貰いたいとの要望もあった。
- ・ 中央研修会に参加したことにより、教誨師それぞれが自己の使命を再確認しながら教誨活動を行うことができた。また、習得した教誨技術を実践することにより、被収容者の社会復帰後の再犯・再非行の防止に繋がることが確認できた。中央研修会に限らず他の研修会も教誨技術等を向上させるために必要かつ重要な事業であることから、研修内容を充実させるとともに継続して実施する必要があることが確認できた。

## 6 効果

行刑施設に収容されている被収容者のうち、薬物に関係している者が多くおりこうした被収容者に対する教誨について大変参考となる研修を実施することができた。

今回、1泊2日の日程による研修会を実施したが、研修参加者の日程や対費用の面を検討した結果、今後も実施可能であることが分かった。全国大会を開催しない年に1泊2日の日程で研修会を開催する方向で運営を行う。

矯正行政の面と共に社会環境も整えられることが矯正において大切である強く感じるようになった。

研修により最新の情報を入手できたことにより、新たな気持ちで教誨を実践できるようになり、被収容者との接触の仕方にも良い変化をもたらすことができた。

研修後、教誨師同志の意見交換を進んで行えるようになり、自己の教誨活動に反映することができた。

研修会に参加した教誨師の感想として、自らが教誨活動に対する意欲がより向上し、教誨を受ける被収容者等が積極的に反応するようになったと感じられるといった感想も多くあったことから、研修会の最終目標をおおむね達成することができたと評価する。